

令和7年7月16日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大・短大

ネイチャーウォッチングだより

7月12日(土)、夏らしい天候に恵まれ、岡崎市少年自然の家を会場に本年度Aグループ第1回のネイチャーウォッチング「めざせ 虫博士」を開催しました。27組の親子79名が参加し、昆虫について学んだ後、トンボやバッタなどの昆虫採集を実際に体験しました。

講師は、日本昆虫学会の鈴木栄二先生です。昆虫の特徴やトンボなどの捕まえ方を教えていただきました。「足が6本、羽が4枚だから『むし』(六四) ということです」「トンボを捕まえたら羽を触ってはいけません。尾っぽをつかんで虫かごに入れてください」など、たいへんていねいな説明でした。先生が採集した昆虫の標本は、きれいに整理されており、興味深く見て、「いろいろな種類の虫の標本が見られてうれしかった」という声も聞かれました。



トンボのお話をされる鈴木先生



昆虫標本、すごい!

講話の後は、野外へ出て昆虫採集を行いました。真夏の日差しが届いて暑くなりましたが、子どもたちは「ヘイケの沼」周辺でトンボやバッタを採集しました。沼の周囲ですぐに見つかったのは、赤い色が目立つショウジョウトンボや、オスの腹が青色っぽいオオシオカラトンボです。さっそく捕まえると、鈴木先生に教えていただいた方法で網をつまみ上げ、尾っぽを持って虫かごに入れ、トンボの姿を確かめていました。



トンボはどこにいるのかな

草原では、小型で黄色のキイトンボを捕まえて「赤・青・黄色のトンボをみんな捕まえたよ」と自慢げに教えてくれる子もいました。上空を見ると、日本の南方からやってきたというウスバキトンボが飛び回っていました。これはなかなか捕まりません。見事に網で捕まえ、ボランティアの大学生のお姉さんから「すごい!」と褒められて、大喜びする子もいました。



トンボ、本当に上に行くね

昆虫採集体験の時間が終わると、捕まえたトンボやバッタは惜しみつつ自然に返しました。今回の体験が身近な自然で昆虫採集をするきっかけになり、違う季節でも、親子でいろいろな昆虫を探すことを期待しています。

最後に、ご協力いただいたアンケートから感想の一部を紹介します。

虫のいろんなことを知れてたのしかった。(子)
講義も虫取りもどちらも楽しく参加させていただきました。昆虫に詳しい先生の解説がたいへん有意義でした。(母)

最初は怖がって虫に触れなかったのが、終わる頃にはトンボのお腹もバッタも触れるようになっていました。虫の触り方や捕まえ方も聞くことができ、とてもよかったです。夏休みに虫とりに出かきたいと思います!(母)

虫博士のお話全てがとても面白く、かつ勉強になり、終始楽しむことができました。(母) キイトンボをつかまえられてうれしかったです。(子)
大人も夢中になれる話で、とても楽しかったです。虫とりのコツも学べてよかったです。もう少し虫とりの時間が長くてよかったと思います。(父)



「めざせ 虫博士」に参加された皆さん